きたじま整形外科
〒840-0035 佐賀県伊万里市二里町大里乙127-1（大里バス停前）
tel:0955-25-9977
http://www.kitajimaseikei.com

Hospital Interview with Dr.Kitajima.

きたじま整形外科

患者と向き合う空間づくり

安心して足を運んでもらう“導線”の心地よさ

きたじま整形外科は、佐賀県伊万里市に二年前に開業した。北島院長が開業時、設計・デザインで重視したのは、「導線が合理的で風通しの良い空間である」こと。平屋建てで箱形、グレイトーンにまとめられた外観の建物は、洗練された雰囲気だ。

院内に入ると「廊下がない」ことに気づく。北側は外来部門、南側は診療部門で、区切りは間仕切り壁のみというシンプルなつくり。スタッフとの距離さえ縮まったように感じてしまうのが不思議だ。徹底して無駄を排除した結果、利用者にストレスを与えない、明快な導線が実現した。

中に進むと、天井が高く、南側は一面ガラス張り、明るく開放的な空間が広がる。外からでも病院の雰囲気が伝わり、通院する患者にとっては安心感もあるだろう。開放的な中にも、プライバシーへの配慮として、磨りガラスやロールカーテンが施されている。

開業した当初の予想を超え、来院するのは学生さんや若い方の比率が高くなってきているという。特に女性の利用が多い理由のひとつには、センスの良い空間や光の差込む心地よい雰囲気の中で診療を受けられることも寄与しているのではないだろうか。

「不安を抱える患者が、気軽に足を運んでもらい、ここを選んでよかった、と感じてもらえる病院を目指したい」という院長の想いが、そのまま建物に現れているように感じた。

Ⓐ待合室：診察室入口のサインは待ち合い所からも一目で確認ができる。
Ⓑ受付・会計：入口正面、建物中央に受付が、ここから北側の外来部門、南側は診療部門に分かれる。 Ⓒ佐賀の家：設計技術の高さから、「2011年佐賀の木・家・まちづくり賞佐賀の家賞」を受賞。

こだわりの リハビリルーム

きたじま整形外科で特に力を入れているのが、リハビリテーションの環境である。リハビリ機器15種類と技能訓練の設備が完備され、症状に合わせたプログラムも充実している。利用者の年齢層は幅広い。お年寄りにとっては、受付からほとんど待たずに設備を利用できるため、体への負担も最小限になるであろうし、学生が通学途中に来院した場合は、優先的に利用できるという細かな配慮等、患者と同じ目線に立ったケアが行き届いている。

院長 北島隆治

1982年 島根医科大学卒
佐賀医科大学
整形外科入局
医学部助手
大牟田記念病院
整形外科医長
1990年 社会保険浦之崎病院
整形外科部長
2005年 武部病院副院長

Professional Interview with the Jun Ikeido.

ゲスト：池井戸 潤氏

プロの仕事力

組織の理不尽に立ち向かう銀行員を描いた痛快企業小説など、
真剣に働く男たちの苦悩と戦い、矜持を鮮やかに描き出す作家の池井戸潤さん。
働く意味、夢を叶える秘訣について話を伺いました。

個人にとって働く意味、「仕事」のやりがいとは?

何のために働いているのか。そんな意識を持ち、ひたむきに働く人が減っているように感じます。「適当に働いて後はプライベートを充実させればいい」といった人が増えている気がするんです。働くモチベーションも下がっているし、職を失っても生活保護でも受ければいいや、と考えている人も多い。仕事とは本来、世の中に貢献するためのものです。たしかに今は、リストラだ、不景気だと、自分を守ることで精一杯かもしれません。世のためだとか、大義名分が全くかすんでしまうほど余裕のないところに追い込まれて、自分のことしか考えられない状況に陥ってしまう。それでは世の中もうまく回らないし、仕事もきっと面白くないでしょう。人と一切関わりのない仕事はありません。こういう時代にこそ、懸命に仕事に取り組むことで、どこかで誰かが喜んでくれることに気づき、やりがいにつなげていくことが大切だと思います。

仕事で夢を叶えるために必要なことは?

夢を実現させるための近道はないと思います。仕事に真剣に向き合い、地道にこつこつとやり続けるしかありません。いま、仕事のノウハウ集がよく売れていますが、簡単なコツだけですぐにできてしまうということは、言い替えれば誰にでもできるということ。夢を実現させるのは口で言うほど容易いことではなく、地道に正攻法で登り詰めるしかないはずです。長年の努力に裏打ちされた、知識や実力、実績が必要であることはいうまでもありません。努力をしても結果が出ないこともありますが、だからといってそこでやめたら終わりです。めげずに頑張るしかありません。

僕自身、「作家であり続ける」という夢のために、いまも努力を重ねています。

次回は「企業のチームワーク」についてお話を伺います。

literary Recommended book.

ロスジェネの逆襲
“オレバブ・シリーズ”第3弾（第1弾『オレたちバブル入行組』、第2弾『オレたち花のバブル組』、共に文春文庫）。子会社に飛ばされたバブル世代の銀行員・半沢が、ロスジェネ世代の部下とともに、IT企業の謀略や親会社の横暴と戦う痛快エンタテインメント企業小説。

夢に近道はない。
必要なのは
継続する覚悟と
地道な努力。

Profil
池井戸 潤
作家。1963年岐阜県生まれ。慶應義塾大学卒。『果つる底なき』で第44回江戸川乱歩賞、『鉄の骨』（講談社文庫）で第31回吉川英治文学新人賞、『下町ロケット』（小学館）で第145回直木賞を受賞。主な作品に、『空飛ぶタイヤ』『BT' 63』（以上、講談社文庫）、『オレたちバブル入行組』『オレたち花のバブル組』（以上、文春文庫）、『ルーズヴェルト・ゲーム』（講談社）など。最新刊は、『ロスジェネの逆襲』（ダイヤモンド社）。

祐

Yutokuyakuhin
Medical Letter
たすく
[tasuku] 2012 October

60周年を迎えて。

直木賞作家
池井戸 潤氏が語る
経営改善のヒントがここに！
プロの仕事力

創刊号 特別企画 祐徳薬品工業60周年記念
代表取締役社長インタビュー
—祐徳薬品工業60年の歩み—

病院づくりのアイデア満載！
患者と向き合う空間づくり

おじゃまします！
プロのおもてなし ～個性の光る宿～

達人に学ぶ！
スタッフ育成のヒント

1
創刊号